

いつもお世話になりありがとうございます。日本初のテレビコマーシャルが流れたのは、日本テレビ開局の1953年8月28日でした。その夜7時に流れた「精工舎の時計が7時をお知らせいたします」という時報を兼ねたコマーシャルは、当時の大きな話題となりました。ほんの数秒に凝縮された時代のドラマ、それがテレビコマーシャルなのかもしれません。

痛快! えだまめ君

画:ほりひろみ



知っとこ! 「税務のマメ知識」

【「株主優待乗車券」は配当所得になるの?】

「企業から株主に送られてくる株主優待乗車券などは配当所得になるのでしょうか?」というご質問を個人株主の方からいただいたことがあります。一般的に株主優待とは、企業が株主にサービスや自社商品などを提供するものをいい、具体的には割引券や優待券、食料品、オリジナルグッズなど様々なものがあります。こうした株主優待を行っている企業は、上場企業の3分の1程度といわれています。税法では、株主優待券等による配当については次のようになっています。「法人の利益の有無に関係なく株主という地位に基づき支給する“旅客運送業を営む法人が自己の交通機関を利用させるために交付する株主優待乗車券等”“映画・演劇等の興行業を営む法人が自己の興行場等において上映する映画の鑑賞等をさせるために交付する株主優待入場券等”“ホテル・旅館業等を営む法人が自己の施設を利用させるために交付する株主優待施設利用券等”“法人が自己の製品等の値引販売を行うことにより供与する利益”“法人が創業記念・増資記念等に際して交付する記念品”で法人が剰余金または利益の処分として取り扱わない場合は配当等に含まれない」とされています。そのため株主優待券等による配当は「配当所得」にはなりません。ただし、これらは「雑所得」として扱われるため課税対象にはなりません。



副所長

たなべしげお

田邊繁雄の ~税務の豆知識



消費税の軽減税率制度のゆくえ

みなさんご承知のとおり、消費税率の10%への引き上げ時期が1年6か月先送りされ、平成29年4月1日に変更されています。税率の引き上げに際しては、他の品目よりも低い税率を課す「軽減税率」の導入を目指すこととされており、本年5月以降、対象品目についての検討が始まっています。検討は、与党税制協議会の「消費税軽減税率制度検討委員会」で行われています。ここでの協議内容は、自民党HPに掲載されており、対象品目8案の内、代表的な例として、「酒類を除く飲食料品」、「生鮮食品」、「精米」を対象とする場合の具体案や課題、相対的な比較が試まれています。

どの品目についても、軽減税率の対象とするには一長一短があるようで、仮に導入された場合、事業者の方の事務負担の増加や、消費者の(品目毎の)不公平感の高まり、一定期間経過後の品目の見直し(対象品目増加のための業界の陳情合戦)の声の高まり等、混乱が予想されます。

別途、軽減税率導入と並行して、社会保障(の不足する)財源は、やはり、現行の水平的に公平な単一税率制度で賄うべきという議論もあってよさそう・・・と思うのは私だけでしょうか。

社員のひとこと日記



いよいよ 夏真っ盛り 8月に突入。

皆さん、夏バテしてしてませんか？ 私はすでにばて気味です。

日中は涼しい事務所にいることが多いのですが、家に帰るとむちゃくちゃ暑いんです。

我が家は山際にあり前には川が流れています。なので家じゅうの窓を開け放すと割と涼しく普段からなるべくエアコンをつけないようにしているのですが、今年は暑い！！

ご飯を作り出すと熱が・・・たまたまスイッチ ON してしまいます。

夏は暑いのが当たり前、

花火 川遊び 海水浴 BBQ 夏だからこそ楽しめることたくさんあります。

ビタミン B1 (豚肉・ウナギ etc)、夏野菜 しっかり食べて、元気いっぱい！！
おもいっきり夏を 楽しみたいですね。

にしはら

365日 が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【ひがまない七訓】

誰が言い出したのか定かではありませんが、「ひがみ七訓」をご存じでしょうか。



- 一、つらいことが多いのは、感謝を知らないからだ
- 一、苦しいことが多いのは、自分に甘えがあるからだ
- 一、悲しいことが多いのは、自分の事しか考えないからだ
- 一、怒ることが多いのは、我がままだからだ
- 一、心配することが多いのは、今を懸命に生きていないからだ
- 一、行きづまりが多いのは、自分が裸になれないからだ
- 一、あせることが多いのは、行動目的がないからだ

誰でも多少は身に覚えのあることだと思いますが、これを読んだある人は「まさにうちの社長のことだ」と苦笑していました。社長だからといって完璧な人などいませんし、商売は上手でも人間としてまだまだ発展途上の経営者はめずらしくありません。けれど世間は優秀な人が会社を経営するものだと思っている節があります。特に社員は、「社長なんだから人間としても立派な存在でいてほしい」と高い理想を掲げるものです。先ほどの「ひがみ七訓」を「ひがまない七訓」にちょっとアレンジしてみました。読み比べてみてください。

- 一、「ありがとう」を言葉にすると、つらいことが減ってくる
- 一、ダメな自分も認めてあげると、苦しいことが減ってくる
- 一、身近な人を笑顔にできたら、悲しいことが減ってくる
- 一、我がまます上手に言えるようになれば、怒ることが減ってくる
- 一、自分にできることを頑張れば、心配することが減ってくる
- 一、自分と人を比べないようにすれば、行きづまるものが減ってくる
- 一、「これが好きだから」と思ってやれば、あせることが減ってくる



商売も人間磨きも積み重ねこそ実力ではないでしょうか。コツコツと歩を進めていきたいものですね。